

# IGF 2019 参加支援プログラム

## 参加報告書

作成日：2019/12/27

作成者：株式会社ドヴァ

I C Tソリューション統轄本部

新垣 杏里

### 0. フォーラム情報

フォーラム名 : Internet Governance Forum (IGF) 2019

開催場所 : ベルリン、ドイツ

開催日 : 2019年11月25日～2019年11月29日

### 1. 参加したセッション名

本カンファレンスで以下のセッションに参加させていただきました。

- Youth IGF Summit
- The Clash of Codes. Conflicts of Laws in Government Data Access and How to Resolve Them
- The 3<sup>rd</sup> German-Arab Forum on the Digital Economy
- Electricity, Community Networks and Digital Inclusion: The case of the underserved communities
- The evolving ecosystem: ICANN's role in the security and stability of the Internet
- IGF for Beginners Main Session
- Data Governance Introductory Session
- OPENING CEREMONY
- Closing the Digital Gap for Marginalized Communities
- Addressing Terrorist and Violent Extremist Content Online
- Achieving the SDGs in the digital age
- Value and Regulation of Personal Data in the BRICS
- Digitally Skilling our Youth: Varied Global Approaches
- Dynamic Coalitions: Joint Efforts to achieve the SDGs
- Legislative Main Session
- CLOSING CEREMONY

## 2. 参加したセッションのうち特に印象に残ったもの

特に印象に残ったセッションは「The Clash of Codes. Conflicts of Laws in Government Data Access and How to Resolve Them」です。

このセッションを選んだ理由は今後 DDFT に関連するかもしれないと考えたためです。国際的なデータガバナンスの例として米国の Cloud Act と欧州の E-Evidence-Proposal がよく挙げられます。ざっくりとした例ですが、欧州の被害者 A と米国の加害者 B がいます。彼らの事件の証拠は米国のサーバーに残っているため、欧州が米国にそのデータの受け渡りをリクエストします。しかしそのリクエストは米国のルールに則り棄却される、といった感じです。このような場合の法の衝突は偶然ではなく、政治的に意図されたものです。そこで、このセッションではこのような競合をどのように解決するか討論しました。

このセッションが印象に残った理由は、話を聞いて思い出したことがあったためです。沖縄県で事件を起こした米軍基地関係者の話です。簡単な説明ですが、沖縄県で米軍関係者が公務執行中に事件を起こした場合、日米地位協定により日本の法律で裁判することができません。県内で起こった事件であるのに日本の法律で裁けないのは問題ではないのか、といった話が今もあります。国籍が異なる人々が関連する事件での裁判問題と似ているな、と感じこのセッションは印象に残りました。

このように、インターネットを介した事件が起こった場合、その証拠を受け取るために効率よく手続きを済ませ、短い期間でデータを受け取るガバナンスが必要などということがわかりました。

## 3. 今回の経験をどう生かしていきたいか

今回参加して特に変化したことは、グローバルな活動に対して感じていた敷居の高さです。世界中で活躍する人の話やニュースを聞いたときの印象はキラキラしている、遠い世界の話、でした。しかしこの IGF には誰もが気軽に参加できます。参加申込をして会場までの足と拠点を確保できれば、これまで感じていた敷居など無く、キラキラしているように見えるけど普通にプログラムについて話しているだけで、遠い世界の話だと思っていた SDGs (国連主催のサミットで採用された持続可能な開発目標) は日本全国で取り組んでいました。

つまり私が感じていた敷居の高さはただの勘違いだったということがこの IGF の参加の最大の気づきです。この気づきを生かして今後業務と興味に関わるグローバルなイベント・プロジェクトは積極的に参加する所存です。

## 4. 参加支援プログラムに対する所感

### 4.1. 支援について

本参加支援プログラムのおかげで貴重な経験をいただき、誠に感謝申し上げます。初の国際フォーラム参加でしたが、渡航経験の少ない私でも気持ちに余裕をもって行動でき、フライトや宿泊の手続きをしていただけたので不便も大きな問題や不安はありませんでした。ただ、今回はベルリンという場所に救われた気がしなくもありません。語学に問題があったり、日本とは環境・習慣が全く異なるような地域だと一人で行動することが多い場合に不安を感じる可能性があります。そのため、それに対するサポート、もしくは逆に自由行動できる人を支援対象にする仕組みがあると良いと思います。

IGF はルールメイキングに関するフォーラムであり法律に関する話題が豊富であるため、法学部の学生さん向けにも案内を出してみても良いかと思いました。

また、IGF への理解度向上を目的に、ドメイン問題のようなライトな討論会を事前会合でやってみるのはどうでしょうか。過去にあった問題でも今あるものでも、仮想的な問題でも、全員が知っていて取り組みやすい内容だと話が盛り上がり楽しいかもしれません。

### 4.2. 次回参加者へのアドバイス

#### 1. 英語できてもできなくても兎に角楽しむ

IGF のことがよくわからなくても興味あるセッションを聞きまくってと空き時間観光とご飯を楽しむこと。セッションのトランスクリプションがあるので心配しないこと。

#### 2. どのセッション聞くか事前にチェックする

セッションに関する予備知識を学習するとセッションの理解度と楽しさが倍増します。

#### 3. 現地参加者と交流する

現地参加の醍醐味は参加者との交流です。いろんな立場のいろんな国の人々がいます。ちょっとしたきっかけや質問からいろんな会話に発展できると楽しいです。

下手な英語でも相手は真剣に聞こうとしてくれます。ので、語学の上手い下手に関係なく聞きたいこと、話したいことがあれば積極的に話しかけましょう。